

ここが聞きたい！ 一般質問

(一般質問の文章は、質問者の責任で作成しています)

質問項目

滝沢 幸映 議員 4ページ

- ① デジタル時代の対応について
- ② 地域の環境問題について

吉川 まゆみ 議員 5ページ

- ① 学校給食の食物アレルギー対応食実施について
- ② 保育園の利用について
- ③ 死亡後の手続きワンストップ化について

中嶋 登 議員 5ページ

- ① 子ども3ワクチンについて
- ② 新工業団地について

塩野入 猛 議員 6ページ

- ① 計画行政について
- ② 農業振興について

朝倉 国勝 議員 6ページ

- ① R3年度の予算編成について
- ② 長期総合計画の推進

祢津 明子 議員 7ページ

- ① 今後の子育て支援について
- ② 今後の介護・医療について

大日向 進也 議員 7ページ

- ① 地域交通について
- ② 不法投棄について

山城 峻一 議員 8ページ

- ① 性の多様性について
- ② コロナ禍における町の施策について

玉川 清史 議員 8ページ

- ① 障害者福祉について
- ② 生活保護について
- ③ コロナ対策について
- ④ 除雪について

小宮山 定彦 議員 9ページ

- ① 一般廃棄物(ごみ)について
- ② (仮称)長野広域連合B焼却施設について

栗田 隆 議員 9ページ

- ① ワクチン接種について
- ② 教育について
- ③ ゴミ収集について
- ④ 安全運転機器への補助について

中島 新一 議員 10ページ

- ① 新型コロナの対応について
- ② 大雪対策について

大森 茂彦 議員 10ページ

- ① 来年度予算の編成方針は
- ② 魅力ある保育行政へ
- ③ 循環バス運行の見直しを

デジタル化

町行政での推進は

利便性と効率化を目指す



滝沢 幸映 議員

問

コロナ禍の時代、さらに行政のデジタル化の推進が求められる。町民の利便性向上と行政の効率化に向けた取り組みは、

町長 国においてはデジタル化推進にDX(デジタル変革)を進め、デジタル庁を創設すると発表。町も大変重要なテーマと認識している。これまで情報通信技術を活用した取り

問

町ホームページリニューアルの内容は、

企画政策課長 トップページのデザインを一新し、町の見所や四季折々の風景などの画像を動的に表示し、町の魅力を視覚的に伝えるデザインを検討している。また、今後は動画による情報提供も積極的に活用していく。

地域猫問題は

近隣自治体では、行政の補助で地域猫活動が定着してきている。当町でも猫に対する不妊・去

勢手術の補助を望む。

住民環境課長 県の取り組みについても注視しながら研究していく。



本年度中にリニューアルされる町HP

学校給食

アレルギー対応食は

外部委託について検討中



吉川 まゆみ 議員

問 今の食育・学校給食センターの施設では、アレルギー対応食の調理

は難しいと聞いている。一昨年の答弁では「施設面では難しいが、その中でどういう対応ができるか、検討を進めていく」とあったが、その後の検討状況は。 **教育文化課長** 現状において他の手法で安全なア



楽しい給食の時間

レルギー対応食の提供ができないかといったことを踏まえ、外部委託での対応を検討。東北信地域の給食提供者に、対応の可否を含め相談し、検討を進めている状況である。

問 外部委託の実現に向け、何社に当たり、その感触についてはどうか。 **教育文化課長** 北信5社東信9社に相談。献立の内容により作る数量もその日により変わり、必要数も少数のため、外部委託の条件としては難しい状況である。引き続きアレルギー対応食の提供について研究していく。

お悔やみコーナー設置は

問 遺族が行う手続きが一か所で行えるコーナーの設置を。 **住民環境課長** 既に住民環境課窓口でワンストップ窓口として対応している。ご遺族の不安解消のため死亡後の手続き一覧表に「住民係の窓口にお声がけください」と表示することとした。

子宮頸がんワクチンは

希望者には接種可能

3ワクチン



中嶋 登 議員

問 中沢町政の頃、数回に渡り一般質問を行い、ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がんワクチンの3ワクチンを、県下に先駆け無料にした。PTAや若い夫婦に大変喜ばれたが、最近の推移は。 **保健センター所長** 3ワクチンは「定期接種」である。令和元年度、ヒブワクチンは295名で接種率87%、小児用肺炎球菌ワクチンは299名

88%である。一方、子宮頸がんワクチンは、平成23年度305名86%をピークに、令和元年度は3名0.8%である。副反応発生があり積極的な勧奨は行っていない。

町長 私も中嶋議員と同じ意見であり、国は7年間もほったらかしている。積極的な勧奨はしないようにと言われれば町は従わざるをえない。ワクチンの効果とリスクについて正しい情報を提供していく。

がんで、子宮頸がんは第1位となっている。毎年1万人以上の女性が新たに子宮頸がんになり約3千人が亡くなっている。子宮頸がんワクチン接種に町も積極的に取り組むべきである。



長野県細胞検査士会発行